

新機械振興賞に7件

機械振興協会

機械振興協会は、2008年度新機械振興賞の受賞7件を決めた。経済産業大臣賞はJFEスチールの厚板オンライン熱処理設備、中小企業庁長官賞はオプトンのロボットベンダーによるパイプ曲げ加工技術が受賞した。

同賞は、獨創性、経済性にすぐれた機械工業技術の研究開発、実用化による製品の品質改善に功績をあげた企業、研究開発担当者に贈られる。6回目となる今回は37件の応募があり、審査委員会（委員長・吉川弘之産業技術総合研究所理事長）が現地調査を含めて審査した。

JFEスチールの厚板オンライン熱処理設備は、オンラインで焼き戻し処理をすることで、生産量を3倍に増やしコストを低減するとともに、新しい高強度・高性能鋼開発の道を開いた。

表彰式は1月19日に東京都港区の東京プリンスホテルで開く。

機械振興協会会長賞は次のとおり。▽大型ガラス基板用浮上搬送技術の開発（IH1）▽高品位TEM試料作製装置の開発（エスアイ・ナノテクノロジー）▽水平対向ディーゼルエンジンの開発（富士重工業）▽磁気ヘッド・サスペンション調整技術の開発（富士通、富士通オートメーション）▽高意匠性乾式加飾技術の開発（リアライズ、高知県工業技術センター）。